

平成28年度第4回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録

日時 平成29年1月19日（木）14:00～15:32

場所 事務局第1会議室

出席者 山口学長、佐藤理事、齊藤理事、渡邊理事、吉澤理事
内海委員、小川委員、佐々木委員、塩川委員、土肥委員、平本委員

欠席者 利根委員

陪席者 齋藤監事、小川監事、尾崎学長特別補佐、中林副学長、伊藤副学長、堀田副学長、川又副学長、伊藤人文社会科学部研究科長、市橋教養学部長、柳澤経済学部長、細渕教育学部長、堀尾理工学研究科長、鈴木理学部長、重原工学部長

○ 前回議事要録の確認

平成28年度第3回国立大学法人埼玉大学経営協議会議事要録（案）の確認が行われ、承認された。

○ 報告事項

1 平成29年度予算の内示について

渡邊理事から、資料2に基づき、平成29年度予算の内示について報告があった。

2 財務レポートについて

渡邊理事から、資料3に基づき、平成27事業年度の財務状況等を中心として作成した財務レポートについて報告があった。

※報告における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

☆業務運営のための経費である人件費は、平成27年度に大幅に増加している要因は何か。

△平成27年度は、人事院勧告への準拠、補助金による教員採用数の増、さらには退職者が多い年であったため、これらの要因から人件費が増加したものである。

☆この先、運営費交付金や授業料の増加は見込めないので、人件費については長期的な展望を持って戦略的な計画を立てられたい。

△今後6年間で教員25名の削減を計画しているが、削減するだけでなく人件費の有効活用について、戦略的に考えていく。

☆今後の大学の在り方を考えた時に、大学にとって国際化を推進していくことは大きな課題であることから、埼玉大学としての国際化の対応について示した方が良い。また、埼玉大学が地域社会全体の中でどのような機能を果たしているかについて示した方が良い。

△地域活性化機関としての中核拠点になるべく、先端産業国際ラボラトリーや総合キャリアセンターSUを設置し、地域を相当意識した仕掛けをしているが見えづらい部分もあるため、今後は積極的に示していく。

○ 審議事項

1 中期目標・中期計画の変更について

山口学長から、資料4に基づき、中期目標・中期計画の変更について説明の後、審議の結果、承認された。

2 国立大学法人埼玉大学教職員給与規則等の一部改正について

渡邊理事から、資料5に基づき、国立大学法人埼玉大学教職員給与規則等の一部

改正について説明の後、審議の結果、承認された。

※報告における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

☆積み残しであるボーナス0.1ヶ月分と地域手当1%の増額に係る経費は約1億円とのことだが、財政状況によっては実施しないということか。

△本学は今まで人事院勧告に準拠して対応してきたが、現在の財政状況は非常に厳しく、今後の収支予測を十分に検討したうえで方策を練っていく。

☆民間企業だと組合との折衝があるが、大学にあっては組合とはどのような手続きが必要なのか。

△積み残し部分の実施については、過半数代表者と教職員組合の双方の意見を聴きながら決めていく。

☆これからの大学の教員は海外や地域に出て、そこで得た様々な経験を大学に持ち帰ることが重要である。そういう意味では、大学の教員が国際貢献・地域貢献を行うことができる仕組みが必要である。

△クロスアポイント制度を利用することで、例えば、本学の教員が他の研究機関と両方で働いたり、逆に地域の企業から大学に採用して教員との接点を深めるなど、人件費を有効に活用することを考えている。

3 平成29年度予算編成方針について

渡邊理事から、資料6に基づき、平成29年度予算編成方針について説明の後、審議の結果、承認された。

※報告における意見等は次のとおり（☆学外委員、△学内委員等）

☆今後の機動的な大学運営を考えると、実質的に学長裁量経費が機能するような仕組みを作りたい。

△全学予算委員会の中で、各事業の状況を横並びにして確認することができるようになった。本当に必要な事業に学長裁量経費を充てられるよう、見直しを図っていく。

☆全学予算委員会の運営で工夫していることは何か。

△今まで各部局の裁量に任せていた予算執行をやめて、全学予算委員会の中で大学全体の予算を有効に活用することを仕掛けてはいるが、まだ各部局の既得権的な意識が強いところがあるため、事業に優先順位を付けて徐々に変えていく考えである。

☆学生に使われている予算が見えてこない。学生にも予算を配分することで、学生がイベントなどを企画し教育現場が活性化するのではないか。

△財務レポートで学生一人当たりの教育関係経費を数字で表しているが、ご指摘のとおりもっと積極的に学生を活用して大学運営に活かすことが大事であり、学生支援の観点から学生への予算を整理することは必要と考えている。

○ その他

1 埼玉大学の最新の動向について

山口学長から、資料7に基づき、第2期中期目標期間での教育研究に係る主要な取組の状況と成果について説明があった。

2 次回日程（平成29年3月30日（木））

山口学長から、開催時刻については、改めて各委員のご都合を調整したい旨及び会議終了後に懇談会を予定している旨の連絡があった。

以上